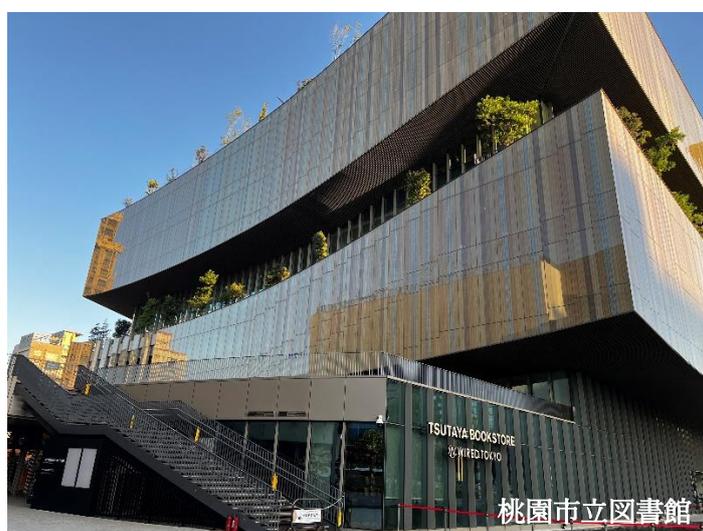


2023 年度私立大学図書館協会海外認定研修参加報告
—台湾図書館研修（台北市・桃園市等）—

立命館大学 図書館利用支援課
山川 礼央奈



<目次>

1. 研修概要
2. 訪問先報告
 - 2-1. 国立故宮博物院
 - 2-2. 台北市立図書館北投分館
 - 2-3. 国立台湾図書館
 - 2-4. 国家発展委員会档案管理局
 - 2-5. 私立中原大学図書館
 - 2-6. 桃園市立図書館新総館
 - 2-7. 蒋経国総統図書館
 - 2-8. 国立政治大学達賢図書館
 - 2-9. 国立台湾大学図書館
 - 2-10. 国家鉄道博物館準備室
 - 2-11. 誠品生活信義店
3. まとめ

1. 研修概要

本研修は、海外図書館や関連機関を巡るフィールドワーク型の企画である。利用者用の施設見学のみならず、バックヤードツアーや最新のトレンドを踏まえた現地職員との情報交換など、貴重な体験がプログラムの中に組み込まれている。ツアー参加者は大学図書館5名、公共図書館1名、専門図書館1名、学生・関連企業他17名、企画運営スタッフ7名による総勢31名の構成であった。研修の概要は以下の通りである。

項目	概要
研修名称	台湾図書館研修
研修日程	2023年12月6日～9日
企画協力	図書館総合展運営委員会、丸善雄松堂株式会社
旅行計画・実施	株式会社アイ・ダヴリュウ・エイ・ツアー
訪問先	台北市・桃園市
訪問機関	①国立故宮博物院 ②台北市立図書館北投分館 ③国立台湾図書館 ④国家発展委員会档案管理局 ⑤私立中原大学図書館 ⑥桃園市立図書館新総館 ⑦蔣経国總統図書館 ⑧国立政治大学達賢図書館 ⑨国立台湾大学図書館 ⑩国家鉄道博物館準備室 ⑪誠品生活信義店

2. 訪問先報告

2-1. 国立故宮博物院

国立故宮博物院は、1965年に設立され、歴代の中華王朝が集めてきた美術品を主な展示品とする、世界的にも有名な博物館である。ここで保管されている所蔵物は元々北京の紫禁城にあったものだが、国共内戦時の戦火を避けて中国大陸を大移動し、蒋介石率いる国民党と共に台湾に運ばれてきた。現在では約70万点の資料を所蔵している。展示場は4階建てとなっており、見学当日は計17の展示が開催されていた。



翠玉白菜



展示紹介

(1) デジタルコレクション

展示場 1 階には「オリエンテーションギャラリー」という長さ 12m のビッグモニターがあり、博物院の所蔵資料 300 点を画像や動画で確認できる仕組みがある。展示場のいたるところにプロジェクションマッピングを楽しめるコーナーがあり、利用者を飽きさせない工夫が行われていた。



オリエンテーション
ギャラリー

(2) 多言語のサービス

中国語・日本語・英語をはじめとする 13 か国語の音声ガイドがある。展示場には、展示の概要説明が中国語・英語・日本語の 3 か国語で紹介されたボードがあった。

2-2. 台北市立図書館北投分館

台北市立図書館北投分館は、グリーンビルディングとして高く評価されている図書館であり、2006 年に設立された。屋上ガーデンには太陽光発電があり、使用する電気を蓄電している。受付カウンターには、発電した電気の数値が表示される電光パネルがあった。屋上の傾斜を利用して雨水をためる仕組みを作っており、たまった雨水はトイレの排水等で利用されている。



外観

(1) 図書館の特徴

図書館は 3 階建てとなっており、ベランダで図書を読むこともできる。書架は全体的に高さが低く、子どもから大人まで手が届く範囲に図書が配架されていた。什器は木製のものが中心となっていたが、自習机にはコンセントや電灯もつけられていた。



館内

(2) 除菌 BOX

図書館の入館ゲート付近に図書の除菌 BOX があった。これは今回訪問した図書館全てで設置されていることを確認しており、台湾の感染症への対策の意識の高さが分かった。



図書の除菌 BOX

(3) 図書の貸出・返却について

図書の貸出・返却は機械で行えるようになっていたが、返却日は図書の裏表紙に貼られている図書カードに印を押せるようになっていた。

2-3. 国立台湾図書館

国立台湾図書館は1914年に設立され、戦前の日本関係資料を10万冊以上所蔵している。日本統治期の台湾総督府図書館と南方資料館の蔵書を保存しているため、台湾学研究の重要拠点として世界的に知られている。図書館は7階建てとなっており、今回は「本の病院」を見に行った。



外観

(1) 本の病院

1915年から製本室を有しており、当初は日本から技術者を招聘し、技術を伝授してもらっていた。2007年に台湾図書病院が設立されてからは、図書修復保護作業の歴史を受け継ぐとともにより先進的な保存観念や技術を取り入れ、全国へ普及していく活動を行っている。現在も修復に使用する和紙などの素材を日本から取り入れており、見学当日は聖書の修復を行っていた。



修復作業現場

(2) 図書館

図書館の1階には、OPAC 端末・PC エリア・閲覧席が広がっており、閲覧席には電灯やコンセントもつけられていた。階段を降りると「親子資料中心」というエリアがあり、子ども向けの図書が配架されていた。この中には給水機も設置されていた。視覚障害者への支援として絵本には点字がつけられ、図書の表紙には音声を聞くためのQRコードも貼られていた。



点字付きの絵本

2-4. 国家發展委員会檔案管理局

国家發展委員会の下に設置された公文書管理機関となっており、公文書の取得・移管・保管・保存・公開等を行っている。2001年の档案局の成立後、国有地を借用し臨時の所蔵場所を設置していたが、2015年に公文書を永久保存するための「国家档案局書房」を行政院の合同庁舎7・8階に設置した。紙資料や映像資料のアーカイブスタジオやアーカイブ資料展示コーナーなどがある。



アーカイブ作業



閲覧室

2-5. 私立中原大学図書館

中原大学は、1955年に創立された桃園市にある私立大学である。7学部27学科を擁する総合大学であり、学生数は約16,000人である。図書館は5階建てとなっており、中にはキャレルデスク・閲覧席・PCルームが設置されている。図書館の開館時間は平日8:00～22:00、土日9:00～18:00となっているが、テスト期間中は閉館時間が午前2時まで延長される。入館ゲート近くにカメラが設置されており、利用者登録をされていると顔認証で入館することも可能。



ゲート近くのモニターでは、天気・気温や館内のCO2排出量を確認できる。 図書館入退館ゲート

2-6. 桃園市立図書館新総館

桃園市立図書館は2022年に新設された図書館である。この図書館は「生命の樹」をコンセプトに日本にある株式会社梓設計と台湾の廓自強建築設計事務所によって建築された。図書館は地上8階・地下2階建てとなっている。図書館の1階には「TSUTAYA」「スターバックス」等が併設されている。1階と2階の入り口にはビックモニターが設置されており、館内の湿度や施設の予約状況、新着図書の状態を確認できるようになっていた。建物の中央には透明の吹き抜けが設置され、太陽の光が差し込む環境で読書を楽しむことができる空間となっている。図書館の中に3Dプリンターがありボードゲームを楽しめる場所もあった。フロアの棲み分けが一部年齢別となっており、その年代にあったおすすめ図書や設備が設置されていた。青少年向けのフロアでは日本のフィギュアがケースで飾られていたり、書架にアニメのキャラクター像が設置されていたりと子どもから大人まで楽しめる空間となっていた。



館内の様子



書架

(1) コンビニでの図書貸出・返却について

桃園市内にあるすべてのコンビニで桃園市立図書館の図書の貸出・返却を行うことができるようになっている。今後は他の市でも同様のサービスを展開する予定。

(2) 予約本の受取について

図書館ホームページで予約した本の受取はカウンターを通さなくても全て機械で完結することができるようになっていた。

予約本は一角に集められ、貸出機に図書館カードをかざすと借りることができる。



予約本の受け取り方法

2-7. 蔣経国総統図書館

蔣経国総統図書館は、蒋介石の長男である蔣経国を記念する台湾で初めての「総統図書館（大統領図書館）」であり、2022年に設立された。蔣経国総統期の重要な政策決定、社会の出来事についての資料の収集、展示、保存を行っている。図書館の中には蔣経国を紹介する展示が開催されており、蔣経国の笑顔を集めた写真を紹介するコーナーや手記も公開されており、人柄が分かるような展示構成となっていた。1階では展示場やミーティングスペースがあり、2階には閲覧席が設置されていた。



手記



展示



閲覧室

2-8. 国立政治大学達賢図書館

1927年に設立された中央党務学校が前身であり、現在は10学部52学科を設ける台湾でも有数の総合大学となっている。学生数は約16,000人である。達賢図書館は2020年に設立され、主に利用者サービスを担当する部署の職員が勤務している。建物は8階建てとなっており、ゲームコーナー・ラーニングcommons・視聴覚ブース・メーカースペース（3Dプリンター設置）・映像撮影室等が含まれていた。学生の雇用は経済的に困難な学生のサポートとして行っており、カウンター業務や配架を行ってもらっている。



外観

(1) 寄付による建設

達賢図書館は卒業生からの寄付と政府の援助金で建設されている。エントランスに掲げられた花びらの大きさによって寄付金額が表現されている。また4階・5階にあるセミナールームの看板でも寄付していただいた企業の社名を記載していた。



花びらモチーフ



セミナー
ルーム

(2) 図書館の特徴

- ・入退館ゲート前に利用者登録を行えるPCがある。
- ・18歳以上であれば無料で図書館を利用可能。
- ・AR（拡張現実 Augmented Reality）を取り入れた館内ツアーがあった。
- ・吹き抜け構造となっており、全ての階の書架が見える構造となっていた。
- ・8階にある研究スペースでは有償で部屋の貸出を行っている。



吹き抜け構造

2-9. 国立台湾大学図書館

国立台湾大学は、日本統治時代の1928年に設立された台北帝国大学が前身となっている。13学部58学科を設けており、学生数は3万人を超える総合大学である。図書館の職員は6割が公務員、残りは派遣会社の職員を雇用しており、職員は150名在籍している。温度設定は夏が26度、冬が20度となっており、湿度は60%を保つようにしている。湿度管理はデータロガーで行われていた。



総合図書館外観

(1) 総合図書館

図書館は地下1階から地上5階まであり、1階にはコモンズ・10人が入れる視聴覚コーナーやレコードを再生できる機械も設置されていた。図書館のアプリでQRコードによる入館手続きができ、他にも館内の利用者数やデータベース検索、施設予約を確認できるようになっていた。図書館のサービスについてはホームページで動画が公開されており、長さは1分程度で簡潔にまとめたものをアップしている。貴重書は館内で閲覧できるものもあるが、デジタル化を進めておりWEBサイトでも資料を閲覧できるようになっていた。館内では、図書の展示が盛んにおこなわれており、見学当日は「ブラインドブック企画」が行われていた。展示期間中は職員によって毎日25冊の図書を入れ替えているとのことであった。フィードバック方法として展示場所の近くに付箋と付箋を貼れるボードを設置し、手軽に記述できる形式を取っていた。図書館のトイレにはジェンダーフリーの標識が掲示され、最新の情勢にあわせた整備をされていると感じた。



図書館アプリ



ジェンダーフリー標識



図書展示

(2) 自動書庫

自動書庫は地下1階～4階にあり、日本ファイリングのシステムを導入している。約130万冊の収納が可能であり、収納の基準としては台北帝国大学時代の図書が最も優先順位が高く、その他には2006年以降の博士論文や新聞、CD等も入れているとのことであった。



自動書庫

(3) 辜振甫先生記念図書館

2014年に日本人の伊東豊雄氏、藤江和子氏によって建築・設計された。社会学部棟の地下1階～地上2階が図書館となっている。書架や机の素材には竹を使用しており、エコを心掛けている。



図書館内観

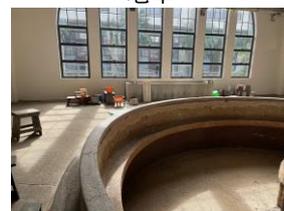
2-10. 国家鉄道博物館準備室

国家鉄道博物館は 2026 年に開館予定となっており、台北市内にある旧鉄道工場跡「台北機廠」を活用して建設を進めている。非常に広大に敷地を有しており、約 16.7 ヘクタールに及ぶとのことであった（東京ドーム 3 個分）。

準備室では、日本から譲渡を受けた車両が公開されており、食堂車等も設置されていた。他にも日本統治時代に建設された大浴場があった。2026 年のオープンまでには実際に鉄道をこの敷地内で走らせることを検討しているという話も出ていた。9/22～10/1 に開催された「台湾クリエイティブエキスポ」というイベントにあわせて、プレオープンを行ったところ約 10 万人の来場があったとのことであった。



電車



大浴場

2-11. 誠品生活信義店

「誠品」は人文とアート関係の専門書店として 1989 年に創業し、2019 年に創業 30 周年を迎えた。信義店は 2006 年にオープンし、建物の中には雑貨屋、スーパー、飲食店も含まれる。書店には 17 万冊の書籍があり、2020 年より 24 時間営業を行っていた。信義店は 2023 年 12 月末で閉店し、24 時間営業は松於店へ引き継がれる。

書店のエリアでは信義店のこれまでの歴史が壁一面に写真で紹介され、関連の動画も流れていた。壁一面に今までの感謝や思いを残した付箋がたくさん貼られており、信義店が愛されていたことがよくわかるような場所が作られていた。



歴史



壁一面の様子

3. まとめ

今回初めて海外の図書館研修に参加したが、最先端の ICT サービスや施設を確認することができ、とても参考になった。なかでもやはりデジタル化の進捗が凄まじく、本学では紙の申請を行っているサービスや人を介して行っている図書の貸し出しについても、台湾ではどこの図書館でもサービスの自動化やデジタル化が進められていた。設備においてもコンセント付きや電灯がついた机が多く、利用者が過ごしやすい環境が整備されていることを実感した。

4 日間で 11 件訪問させていただき、今回得たことを自分の業務に引き付けて図書館で質の高いサービスを提供できるよう引き続き尽力していきたい。

以上